

## 第1回庄原市定住自立圏共生ビジョン策定委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成28年7月28日（木） 14:00～16:20

2. 開催場所 庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室

3. 出席委員 筒井 美智子 委員  
栗部 秀道 委員  
田井 弘司 委員  
荒木 卓夫 委員  
小次 啓二 委員  
實兼 利光 委員  
高橋 美栄子 委員  
林 美千恵 委員

4. 欠席委員 毛利 昭生 委員  
小瀧 一樹 委員

5. 出席者 いちばんづくり課長 島田 虎往  
いちばんづくり課定住推進係長 酒井 伴子  
いちばんづくり課定住推進係 奥山 寿春

6. 会議次第 別紙のとおり

7. 会議経過 別紙のとおり

平成 28 年度第 1 回庄原市定住自立圏共生ビジョン策定委員会次第

と き 平成 28 年 7 月 28 日 (木) 午後 2 時～  
ところ 庄原市役所本庁舎 5 階 第 1 委員会室

1. 開会

2. 委員の紹介

3. 職員の紹介

4. 委員長及び副委員長の選出

5. 委員長挨拶

6. 議事  
共生ビジョン（案）について

7. 質疑

8. その他

## 会議経過

### 1. 開会

### 2. 委員の紹介

### 3. 職員の紹介

### 4. 委員長及び副委員長の選出

事務局提案により、毛利 昭生 委員を委員長に選出。

栗部 秀道 委員を副委員長に選出。

### 5. 委員長挨拶

(毛利委員長欠席のため、栗部副委員長が挨拶)

本日は、庄原市定住自立圏共生ビジョン策定ということで、時間は限られているが、不明な点はしっかりとお聞きいただき、最後に、ご承認いただければと思う。今日は委員長の代わりに、議事の進行をさせていただく。

### 6. 議事

### 7. 質疑

(資料により事務局が説明)

これまでの取り組みについて

委 員:庄原市がしているいろんな施策を共生ビジョンとして取り組むために、この委員会で検討・承認されたものについては、本来の目的は人口の流出減少を食い止めるということで、二次的には財政的措置だと思うが、100%財政的措置の対象になるのか。それとも、申請し審査を受けてという格好になるのか。

事務局:共生ビジョンへ挙がっている事業については、特別交付税措置 8,000 万円が上限となっているが、財源を充てることができる。ここに挙がってない事業につ

いては、今年度は対象にならない。来年度、皆さんのご意見や事業の提案をいただきながら予算措置をしていくことになれば、これを見直し、事業を追加すれば翌年度はその事業も対象になる。現在は予算上の計上であり、実績に応じて 8,000 万円は計上してある事業の中で使うことが出来るというふうにご理解いただきたい。

(資料により事務局が説明)  
共生ビジョン（案）について

委 員：特別交付税についてピンポイントにこの事業にということでなく、全体の中で  
というふうに理解すればいいのか。

事務局：国の財政措置を受けるためということになるので、平成 28 年度の予算額に対して、特別交付税 8,000 万が上限で充てられる。地域活性化事業債の対象事業については、挙がっている事業全部、地域活性化事業債を借りるということではないが、他の有利な制度等も活用しながら、ここに挙がっていれば、他の制度がなくなったときも、国からの財源措置ができる対象メニューということで挙げている。

委 員：庄原市の子どもたちの中に発達障害の子どもたちがかなり増えている。子育て支援の充実の中にも、障害者福祉の推進の中にも、発達障害の取り組みの記載がないが、大きな課題だと思うので、ぜひとも、発達支援センターを庄原市につくり、発達障害のある子どもたちが安心して、庄原市で過ごせる取り組みを行っていただきたい。三次市には、発達支援センターある。そういう取り組みの中で、定住ということにもつながっていくと思う。

副委員長：そういう意見は、これから行政の中での動きの中にプラスしていただく機会があれば検討いただきたい。

委 員：庄原市が中心で、郡部の地域もあるが、庄原市へ人を集めるということなのか。コンパクトシティのように、将来的には旧庄原市へ集めていこうというような事業なのか。

事務局：中心地へ人を集めるということではなくて、機能分担して取り組みをしていく。庄原市全域で一つの圏域という設定なっているが、他のエリアの市町は、中心になっている市が中心市、周りにある市町が近隣市町というエリア設定で、医

療関係でいくと、中心市には大きな病院があり、隣の市には無いので大きい病院を建てるということではなく、主要医療機関は現在ある病院で、それを補完するための、一次医療二次医療との関係でいけば、次の病院の整備という住み分けをして、その地域全体で存続をしていこうという取り組みの一環だというふうに考えていただきたい。人を中心に集めて、周りは過疎になるということではない。

委 員：市が別の場合には、そのように受け止めやすいと思うが、同じ庄原市の中で財政が一つという中で取り組んでいこうと思えば、中心へ拠点をもって、他のところは利便性をとりつつ、予算はもう決まっているわけで、中心へ集めるというふうにしないと難しいのではないか。

事務局：国が示した構想とそれに基づいた形で、市が策定した方針や共生ビジョンでは、中心地は中心市の機能を、周辺はそれぞれの機能を持ちながら連携して、余分なものは今後つくっていかない。中心地で賄えるものは賄う。他の地域は補完的な部分での整備という形のものであって、コンパクトシティとは少し考え方方が変わる。コンパクトシティの冬季生活の不安がある方の対応についての項目はあったが、全体的に中心市へ寄せるということではない。あくまで冬季の生活不安を抱えておられる方に、冬季の期間だけ、住み慣れた地域の中心地域、西城であれば、西城の支所付近や病院付近のところに仮住まいをしていただくという事業は入っている。他の市町にある、限界集落に近いところは、その集落をなくし中心に近いとこに移住してもらうような流れというのは、今の段階では考えてない。それぞれの機能を活かしながら、役割分担をして全地域が頑張っていくという計画だとご理解いただきたい。

副委員長：必要なものは集約したり、継続したり両方兼ね備えたような中身なので、国からの財源を確保するための形ということで、ある程度理解をしていかなければいけない。

委 員：1点目、25ページの教育の充実のところで、定住とか移住とか人口を減らさない、増やしたいという取り組みの中で、地域で育った子どもたちが帰ってくるというのが1番確実だと思う。子どもは一旦出て行くが、出て行った後に小さいときに学んだ地元の良さを思い起こして、地域を守るために帰ってこようと思える子どもを育てるため、1ターンで成功された方などの話を聞いたり、そういう場で働いてみたり、地域に根差した特色ある教育というものを取り入れてほしい。もう一つは、定住に関して、空き家の利活用をしようという

ことで、空き家があつてその上で取り組みがなされているように書かれているが、地域の中で、空き家の問い合わせはあっても、実際には空き家はいっぱいあるが借りられない。年に1回帰ってくるからとか、仏壇があるので貸せないとか、田舎に入ると特に借りられない。かつては自治振興区でも空き家の調査し紹介をして、宿泊をしてもらおうという取り組みをしたが、宅建法に抵触するということで、自治振興区は出来ない。行政がやるので、自治振興区は違う方面から活動してくださいという指導を受けたので、今はしてないが、空き家の登録というところに取り組めるような事業が欲しい。

副委員長：沖縄や鹿児島の離島の方では、先祖を祀つてあっても家を貸しているところもある。少しやり方を考えたり、あるいは仏壇があるのであれば、預かってもらうような対策を考えれば、可能性はあると思う。本日の意見は、記録に残し、来年度再来年度の計画の中に反映できる事業は加えていただくというような形で、検討いただきたい。

委 員：41ページで空き家の利活用について、総合サービスへ委託をされるというふうに書いてあるが、情報を得たいときには総合サービスへ問い合わせをすればよいのか。

事務局：今年度、総合サービスへ委託し事業を行っていく。システム導入に向けて準備をしている段階である。システムが構築されれば問い合わせ等も総合サービスへもしていただくことになるが、現段階では準備中である。

委 員：小児科が少ないので、増えればいいと思う。産科も庄原市にないので不安である。

障害を持った子どもも増えている。昔は付かなかつた病名が全部付いてきているので、認定されて増えてきており、なかなか普通に学校に通えない子も増えてくると思うので対処していただきたい。

副委員長：いろいろな計画の中で、病院の問題というのは本当に大きな、特に産科を含む子育てに関する部分での状況は、誰もが心配されていることである。これは庄原だけに限らず全国的な問題でもあるので、大きい問題で、できれば日赤に産科がくればいいと思う。自分たちは、子育ての時期を過ぎても今度は庄原へ帰ってくれた自分の子どもたちが、目の前にそういう状況を感じる年頃になってきているので、地域の大きな課題の一つだろうと思う。産科あるいは小児科の問題も、記録しておいていただきたい。地

域に住んでいただいている人、あるいはこれから住もうとする人が、来ていただけるプラス要因になるような部分が増えてくれればいいと思う。我々も親としても、あるいはここで暮らす市民としても、近所隣の子どもも含めて、「いつかは帰ってこいよ」という声をかけることもしながら、子どもが体験できる場を加えていく必要がある。学校の先生だったり、保護者であったり、地域であったり、そういった人が関わって、何がしかのものが残せるような取り組みは必要であると感じる。直接、今日の委員会と関係ないこともあるかもしれないが、事務局の方でその辺を少しまとめて、これから事業に活かしていただければと思う。

委 員：この共生ビジョン全体としては大切なことばかりで、全体としては理解できる。24ページの保健医療福祉のネットワーク化の項目のところで、団塊の世代が75歳以上になる2025年問題と言われていると思うが、これは地域包括ケアシステムの構築と展開ということで、特にこの中でも、重要なことばかりだが、2025年を目途では遅い。もう既にこれが構築と展開がされていないといけない問題だと思う。市では本年度から、包括ケアシステムに特化した部署ができたと伺っている。1年でも早く構築され、地域の特性に合ったケアシステムが展開されていくように望む。この中で特にシステムの中では高齢者の住まいの確保というところも重要なことで、高齢者向けのコンパクトシティの事業実施というのも急ぐものであると感じた。ぜひ、1年でも早く進捗していくことを願う。

副委員長：本当に面積の広い市なので、これから先には我々も含めて年を重ねた時には、いつか、集約された施設の中でお世話になる場面というのが出てくると思う。行きたくないなという方も結構いらっしゃるかとは思うが、特に雪の深い中国山地の中ではもう以前からそういった生活を冬の間だけされたところもある。お年を召された方が、寂しくない生活ができるというのもいいのかと思う。いっぺんにそこへ行くと、できないかもしれないで、お試しのような形のものがうまく機能していけばいいと思う。

委 員：手順について、平成28年度については既に動いている事業なので、この場で承認ということになると思うが、次年度以降については、この委員会での話がある程度、庄原市の取り組みの中へ反映される一つの窓口になるのか。説明のあった事業の成果の検証というのは実際どこの場でどのようにして、この5年間の計画に反映されるのか。

事務局：いただいた意見については、取りまとめをし、関係課のほうにも配り、対応について検討していきたいと考えている。

平成 29 年度の予算に向けては、今いただいたような意見も今後どうするのかという部分については、担当課から回答を得られれば、そういうのも踏まえながら、活かしていきたい。10 月ぐらいには 29 年度に向けて再度提案をいただければ、全部活かせることになるのか、場合によってはもう少し検討した上で、さらに 1 年後に活かしていくという形になるのかはあるが、反映できるように、ご意見は担当課の方へ全部つないで検討していく。

平成 28 年度の検証は、来年度の委員会のときに、平成 28 年度の結果を踏まえて、ご提案なりご意見をいただきたい。来年のこの時期になろうと思うが、前年度の成果・課題等も検証する中で、皆さんのご意見もいただき、活かしていきたい。次回からの会議については新しく加わった事業、もしくは、ご提案をさせてもらっている事業の中で、一部変更になった事業を中心に説明させていただき、全体的なご意見をいただきたいと考えている。

副委員長：本年度は実際にもう進んでおり、この共生ビジョンについては、提案があつた形で、決定させていただきたいよろしいか。

#### 【異議なし】

副委員長：たくさんのメニューの中に、国から支援いただけるものが活かされていくということで我々は理解しながら、そして皆様からの意見が今後活かされていくということに期待をしながら、まとめとする。

#### 8. その他

#### 9. 閉会